



Newsletter No.78

2018年11月1日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

みんなでつくろう！レイバーフェスタ 2018

ー 3分ビデオ・川柳大募集していますー

ことしもレイバーフェスタの季節がやってきました。2002年にスタートして以来、ことしで何と17回目です。当初のスローガンは「労働」を観よう・聴こう・話そうでした。固いイメージで取っつきにくい労働問題を文化を通して身近なものとして広げていきたい、という思いです。レイバーネットの「情報ネットワーク」としての活動は、労働問題をベースにしながらも「反戦・反原発・反アベ」など社会的テーマにも果敢に取り組んでいます。

レイバーフェスタをつくるのはあなたです。ことしも「3分ビデオ」「川柳」を大募集します。あなたのたたかひのレポート、言いたいことを表現してみませんか。

レイバーフェスタ2018は12月22日(土)、田町交通ビル6Fホールで開催します。メインの映画は、できたてホヤホヤのドキュメンタリー映画『最後の一滴まで～ヨーロッパの隠された水戦争』です。

ヨーロッパの後追いをするように日本でも水道の民営化が動き出しています。しかしヨーロッパの現実には逆に水道民営化の失敗を浮き彫りにしています。労働者にとっても市民にとっても何一ついいことがない水道民営化。映画を観て一緒に考えましょう。また音楽コーナーでは、「路上」でうたう新しいパフォーマーが登場します。映画『子どものころ光る砂であそんだ』はこれまで知られてこなかった埼玉のアスベスト問題に光をあてていて、中皮腫ガンをかかえながら社会にアピールをつづける

松井絵里さんが登壇します。ぜひ、12月22日はレイバーフェスタにお集まりください。

【プログラム】

12月22日(土) 10:30～16:50

10:30 ★水の民営化に待った！

映画『最後の一滴まで～ヨーロッパの隠された水戦争』(60分) 上映

解説=内田聖子(PARC)・水道労働者

12:00 休憩 50分

12:50 主催者挨拶

13:00 ★たたかひと歌

『路上から発信』ー主張するイロモノみちばた興業フェスタ

末武あすなろ・右田隆・多田弘一・ジョニーH

13:50

★公募川柳入賞作発表(レイバーネット川柳班)

14:10 ★アスベスト問題は続いている

新作映画『子どものころ光る砂であそんだ』

トーク=松井絵里(出演者)・北穂さゆり(制作者)

15:00 休憩(15分)

15:15 ★映像メッセージ「世界から日本から」

三分ビデオ一挙上映(20本)

16:50 終了

■別会場で17:30から「大交流会」を行います。飲食代実費。プログラムは変更の可能性がありま。最新プログラムはレイバーネットHPを参照してください。

*詳細は同封したチラシを参照ください。また賛同団体・個人を募集しています。財政面からフェスタを応援してください。

*3分ビデオ・川柳の締切は12月10日(月)です。送付先はレイバーネット事務局まで。なお川柳は投句フォームがありますので、ネットからお願いします。http://labornetjp.jimdo.com/senryu/



レイバーネットTV・放送案内

ことしのレイバーネットTVも11月、12月の残り2回となりました。スペースたんぼぼに場所を変えてから、8回放送をしてきましたが、新たな広がりをつくることができました。引き続き応援よろしくお祈いします。

●136号放送：11月21日(水)

特集：首都圏原発「東海第二」を動かすな！

ゲスト=おしどりマコ(予定)

●137号放送：12月12日(水)

特集：ことし私のベストワン映画と本でふり返る2018年

ゲスト=吉田裕(交渉中)『日本軍兵士』著者
放送場所=スペースたんぼぼ(19:30～20:45)
視聴サイト=http://www.labornetjp.org/tv

<あなたのベストワンは？アンケートのお願い>

12月の放送は「ことし私のベストワン映画と本でふり返る2018年」です。あなたがことし良かった映画・本から一つを選んで教えてください。番組で紹介します。アンケートはウェブからお願いします。→https://labornetjp.jimdo.com/hon/

わたしたちの『いま』をつくろう！ ～レイバー映画祭 2018 を受けて

木下 昌明

是枝裕和総合監修の『十年』をみた。これは11月3日公開で、10年後の日本を描いた5人の若手監督によるオムニバス映画。高齢化、原発、デジタル社会、徴兵制などの問題をドラマ化していて、日本映画にしては珍しく社会的で野心的な企画といえたが、わたしは感動しなかった。まるで気のぬけた



ビールのようなからだ。

こんな映画だったら、今年9月の「レイバー映画祭」のほうによっぽど見応えがある、と思った。沖縄の辺野古をはじめ日本の底辺で生活し、たたかっている非正規の労働者やベトナム技能実習生の悲惨な実態などをとらえた中短編のドキュメント。そこには10年後にも通じる「いま」の危機があぶりだされていて、胸に迫ってくるものがあった。

そこでわたしは、これらの作品を再編集してタイトルも『十年』に対抗して『いま』とし、一本の映画にまとめてはどうか、と考えた次第だが、いかなものか。

インターネットというのは不思議なメディアである。新聞や雑誌などの活字文化であれ、映画やテレビなどの映像文化であれ、みーんな長い時代をへて、既成の支配的装置に縛られて身動きできにくくなっている。ネットはそんな古い媒体と違って、比較的自由に活用できる装置だ。法や広告などに制約されることも少なく誰でも発信できて自己主張もできる。この新しい技術革新によって新たな視聴覚文化



を花開かせることが可能になった。

それは、レイバーネット日本の18年の歴史をみてもわかる。労働者民衆の立ち位置から自分たちのものの見方・考え方を写真や動画やイラスト、記事などで展開してきたことからもうかがえよう。その活動からネット世界ならではの活動家（アクティビスト）も育ってきた。

こうして従来のジャンルを打破して3分ビデオから中短編ドキュメンタリーまで、さまざまな手法で、いまある状況に光りをあててきた。それが今度の「レイバー映画祭」によく表れていた。個々人の力に負うところも多いが、それを集団の力によって支えている運動が魅力だ。わたしたちの『いま』をつくろう。それは十年先にもつながるはずだ。

*レイバー映画祭2018では、メインで上映された『地の塩』・『ユニオンタイム』の2作品のほか、中短編ドキュメンタリー『辺野古500人大行動』『非正規に尊厳を！』『わたしは黙らない～派遣労働者渡辺照子のたたかい』『技能実習生はもうコリゴリ～ベトナム人の声』『関西の生コン業界でいまなにがおきているか』の5作品があった。



『技能実習生はもうコリゴリ～ベトナム人の声』より

●寄せられた声より

- ・全てのテーマが、日本社会の現実の課題であり、貴重な映像ばかりです。
- ・「ユニオンタイム」、日米の状況は異なるが、労組運動の共通する原点を思い出させてくれた。
- ・「非正規に尊厳を！」、誇りをかけて明るく闘う姿に思わず涙ができました。
- ・映像で見ると、世の中のできごとがとてもわかりやすくありがたいです。
- ・「地の塩」、期待通り、見ごたえがありました。

●あなたのところでも自主上映会を！

レイバー映画祭2018で上映された作品は、『地の塩』を除きすべて上映可能です（『ユニオンタイム』は条件を打診中）。ぜひあなたのところでも上映会を開いてください。「新しい映画ムーブメント」を広げていきましょう。作品の問合せはレイバーネット事務局でも受け付けています。

新刊紹介

●ストする中国 —非正規労働者の闘いと証言



ストする中国

非正規労働者の
闘いと証言

ついに立ち上がった、
抑圧された
労働者たち！

郝仁 編，レイバーネット日本国際部 訳編，石井知章 解説

四六判 / 228 ページ / 並製 定価：2,500 円 + 税

<内容紹介>

官製労働組合しか認められておらず、「スト権」や結社の自由が保障されていない名ばかりの社会主義国・中国で、非正規労働者たちが下から求める集团的・「合法的」なストライ

キをした！ 底辺においやられた労働者たちが次々に展開した抗議行動を、労働者自身の言葉で語った貴重な本。支援者たちによるていねいな聞き取りを通し、ストの原因、状況、結果、そして影響をあきらかにする。広東省のホンダ部品工場など、日本に関わりの深い企業も含む労働の実態と闘いをつぶさに見ていく。

中国の現代史における労働運動の位置づけも詳しく解説している。

<著者・郝仁（ハオレン）のプロフィール>

大学卒業後、2009年に広東省のNGOに勤務。退職後、工場労働者になり、活動家のネットワークを作って一連のストの聞き取りを始める。

●反戦川柳句集

—レイバーネット日本川柳班 編著

「反戦川柳句集」は、2010年のワーキングプア川柳句集『がつんと一句』、2013年の原発川柳句集につづく、レイバーネット日本・川柳班三冊目の句集です。今回「反戦川柳句集」をつくるにあたり、「反戦・平和」を詠んだ川柳を公募し、59名から

154句の応募がありました。川柳班の句会の中でつくられた句とともに句集に載せる予定です。またドイツの「独狼」さんはじめ、岩手県で鶴彬の授業をしていた宇部功さん、鶴彬を顕彰する会の寺内徹乗さんも寄稿しています。乱鬼龍の「川柳の作り方入門」もあり、充実した内容です。頒価は700円。レイバーフェスタでお披露目します。なお制作費に多額の費用がかかっており、1口2000円の制作基金カンパを呼びかけています。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。基金カンパ者には「句集」を贈呈します。

<レイバー・シネクラブ>

毎回、映画を観て熱いディスカッション

7月の定例会（7/27）は少し暑さが和らぐ中、『誰も知らない』を上映しました。参加者13名（男性7人、女性6人）、初めて参加してくださった方が2名いました。実際に1988年に東京で起きた、五人の子どもを置き去りにした事件をベースに作られた映画ですが、是枝監督は完成までに15年の歳月を費やしています。事実とどこまで重なるのか関心を持って観たという人もいました。私は2004年に公開されたときに観ていて、その時もいい映画だとは思ったのですが、今回あらためてこれは秀作だと思いました。同様に、以前みたときは気づかなかった多くのシーンが、よりリアルに感じられたと言う人もいました。パルムドールを受賞した最新作『万引き家族』よりも良かった、嘘くさくない、内側から描いているという声が多かったです。両作品ともコンビが重要な役割を果たしているのも興味深いところ。『万引き家族』と違って『誰も知らない』は万引きをしないのがいいという感想もありました。

8月の夏期合宿では『戦争案内』『不良少年』『真夜中のカーボーイ』を、また9月にはオウム事件のドキュメンタリー映画『A』を観て熱いディスカッションが続きました。11月2日の例会は、1982年に起きたイスラエル軍によるレバノン侵攻を描いたドキュメンタリー・アニメーションの『戦場でワルツを』です。さあ、あなたも「レイバーシネクラブ」に参加しませんか。（堀切さとみ）

*写真右＝シネクラブの様子



<レイバー・ブッククラブ>

「日本軍兵士」を一緒に読む

9月1日のレイバー映画祭では、ブッククラブのつながりから生まれたドキュメンタリー映画『わたしは黙らない～派遣労働者 渡辺照子のたたかい』を上映することができました。ブッククラブでは、9月23日に『日本軍兵士』（吉田裕著）を取りあげて、日本の侵略戦争の実相に触れました。今回は、11月11日（日）午後2時～、取り上げる本は『原民喜一死と愛と孤独の肖像』（岩波新書）です。場所は、東京・神保町のブックカフェ二十世紀です。毎週木曜日のウェブ書評〔週刊 本の発見〕も順調で80回になり、書き手も広がってきました。また12月12日のレイバーネットTVでは、ブッククラブメンバーが中心になって、特集「ことし私のベストワン映画と本で振り返る2018年」を放送します。

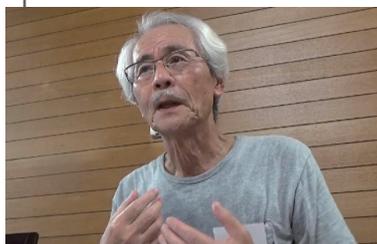
新会員紹介

●総合サポートユニオンで頑張る 池田一慶

新しくレイバーネットに参加させていただきました、総合サポートユニオンの池田一慶です。総合サポートユニオンは、NPO 法人 POSSE が母体となって結成された個人加盟の労働組合です。労働相談を通して、組合員を増やし、業種別職種別の支部に集めて業界規制を実現することを目指しています。まだ結成から4年ですが、ジャパンビバレッジのストライキ闘争など、頑張っていると思います。よろしくお願いします。

最近のウェブサイトから

●山口正紀の「記事の書き方」講座



8月25日、レイバーネット夏期合宿でジャーナリストの山口正紀さんの「記事の書き方」講座があった。とてもいい内容で、報告部分を動画公開することにした。以下、サ

ワリの一部。……インタビュー記事は準備が大事。対象者が書いたものや本をたくさん読んでおく。そして聞きたいことのメモをつくる。私は聞きたい項目をたくさん書き出して、それを重要順に並べて、その順番で聞くようにしている。2時間の取材予定であれば、時間切れになっても重要なものは聞ける。でもたまに相手の厚意で大幅に時間オーバーするときもあった。印象深いのは反戦ジャーナリストのむのたけじさん。30年近く前だが、横手市の自宅に行って話を聞いたのだが、意気投合してしまい「山口さんメシを食べていけよ」となった。結局、昼の2時から夜の9時まで時間をとってもらえた。とても感動した。その時も事前に準備していったことがよかった。むのさん自身に共感してもらえたのだ。取材するときの心構え「事前の準備」はとても大事だ……。 (ぜひ動画をご覧ください)

●インドネットワーク・ユニクロ解雇労働者の報道

「子どもの学費が払えない。生活が苦しい。柳井社長、あなたに会いにはるばるインドネシアから来た!」。ユニクロ委託工場で23年働いて突然倒産解雇で放り出されたワーニさん(46歳/写真)は、

10月9日午後、東京・ユニクロ本部前で涙を流しながら必死の訴えをした。「あなたたちは富を得たかもしれないが、その背景には私たちの血のにじむ



ような酷い労働環境があったんです!」。手にもっているバナーには「柳井正、あなたの富のために働いた労働者に支払いをしてください。」と書かれてあった。この日、代表が会社幹部との面会を求めたが拒否された。ユニクロがインドネシアに進出し、ジャバ・ガーマインド社の縫製工場に生産委託したのは2012年だった。その時ユニクロは、「人員増員・設備投資」などの厳しい条件を付けてきた。9割が女性という縫製工場だったが、それまでインドネシアの労働法で適用されていた産休や生理休暇を認めなかった。また一人一日「ピース400着分」など生産目標を持たせて過酷な労働を強いた。

●湯本雅典さんの沖縄レポート

報道部・湯本雅典記者の「沖縄からのレポート」は今年3月から10月までの間に33本に達した。新作映画『沖縄からの叫び一戦争の時代』(仮)も準備中である。以下は県知事選の記事。「沖縄県知事選挙で、玉城デニーさんが勝利した。確定得票数は、玉城デニー 396632票、佐喜真淳 316458票だった。また確定投票率は、63.24%であった(前回64.13%)。9月30日、記者会見場となった教育福祉会館(那覇市)は、支援者でいっぱいとなった。当選確実のテレビ報道は9時35分、開票開始時刻は9時、テレビでは開票開始時刻前から「玉城氏優勢」のニュースが流れ、記者会見場は明るい雰囲気の中で盛り上がった。

●国際部の米国労働運動紹介

ことし4月から始まったレイバーネット国際部の新企画は月に1回、アメリカの『レイバー・ノーツ』誌から重要記事を紹介すること。すでに7回の記事を出しているが米国の教員のたたかいは反響が広がっている。また同時期から始めた「レイバーネットTV動画ニュース」(英語字幕版)も好評だ。

また同時期から始めた「レイバーネットTV動画ニュース」(英語字幕版)も好評だ。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 570名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578